

# 広島都市学園大学の地域子育て支援拠点事業に関する一考察

— 「いーぐる」利用者への第5回質問紙調査から —

富田 道子・児嶋 芳郎・田丸 尚美・深澤 悦子  
國清 あやか・須崎 朝子・瀧口 美絵・石橋 由美

広島都市学園大学子ども教育学部

## 要 旨

オープンスペースを利用している保護者を対象に、第4回質問紙調査を実施し、以下の結果を得た。第一に、主な利用保護者の年代は30代であり、第1子のみ利用が6割と前回(2016年度)調査結果から20ポイント下がり、第2子のみ利用が2割に増えた。ほとんどが核家族で、何かあった時に頼れる親族がいる者は約8割いることが明らかになった。第二に、オープンスペースを知ったきっかけは、「口コミで知った」の回答者がもっとも多く、次いで「区役所や公民館」であったが、「市の広報紙」の回答割合も前回調査結果と比較して増えていることが明らかとなった。第三に、オープンスペースの利用理由として多く挙げられた項目は「子どもが喜ぶから」、「親子でいろいろなおもちゃで遊べるから」、「安心できる環境だから」、「同じような年齢の子どもとの交流ができるから」、「ストレス解消やリフレッシュできるから」、「設備や遊具が充実しているから」であった。第四に、子どもについての気かり・心配ごとの第1位は「食事」であり、次いで「からだの成長」、「トイレトレーニング」の割合が高いことが明らかとなった。第五に、オープンスペースに対しては、9割近くの利用者が「満足」と回答した。第六に、利用者自身については、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」の回答割合がもっとも高く、次いで「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」が高いことがわかった。さらに、利用保護者自身についての回答と「頼れる親族の有無」との関連をみたところ、頼れる親族がいない利用保護者よりも、頼れる親族がいると回答した利用保護者の方が子育てを一人で抱えているように窺えた。

**キーワード：**地域子育て支援拠点事業、大学、オープンスペース、保護者、乳幼児

## はじめに

2001年に始まった厚生労働省が推進する「健やか親子21」は、母子の健康水準を向上させるための様々な取り組みをみんなで推進する国民運動計画であり、2015年度から現状の課題を踏まえた第2次計画(10年計画)が始まった。

その基盤課題のなかに「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」があり、「社会全体で子どもの健やかな成長を見守りながら、子育て中の親を孤立させず支える地域づくり」をめざしている。なかでも、「親子それぞれが発信する様々なサインを受け止め、丁寧に向き合い、子育てに寄り添う支援を充実させる」ことを重点課題の1つとし、親や子どもの多様性を尊重し、それを支える社会の構築を目標としている。

2014年7月に事業を開始した広島都市学園大学内にある「公募型常設オープンスペース」(以下、オープンスペースと称す)も現在その一端を担っている。利用者の多様なニーズに合わせた、より質の高い事業をすすめる手掛かりとして、オープンスペースにおける利用者への質問紙調査結果を考察する。

## 1. 研究方法

### (1) 質問紙調査対象者・時期・調査方法・倫理的配慮

質問紙調査の対象者は、オープンスペースを利用している保護者であり、調査時期は2017年9月11日～10月4日(108名、回収率100%)であった。また、利用者の居住地は、広島市南区が87.5%と圧倒的に多く、次いで南区に隣接する中区が7.0%であった<sup>1)</sup>。

調査方法は、オープンスペースを利用する保護者に調査依頼状と質問紙を手渡し、調査の目的とともに、①調査依頼状の内容に目を通した上で、フェイスシートの「調査に同意する・しない」のいずれかに印す、②「調査に同意する」者は各調査項目に回答後、また、「調査に同意しない」者は未記入のまま、質問紙を所定の場所に設置した箱に提出する、という手順を説明した。なお、質問紙を回収の際、子育てアドバイザーや他の利用者に回答内容がわからない場所に箱を設置した。

なお、今年度の調査については修正・新規項目がある。具体的には、「オープンスペース利用理由」のなかの「月曜日に子育て相談がある」の項目を「子育て相談がある」に修正した。理由は、これまで月曜日に実施していた『子育てなんでも相談』に加え、今年度から利用保護者の食の悩み・相談に対応するものとして木曜日に『食のなんでも相談』を設け、さらに、利用保護者を対象とした講習会として『なんでも語ろう会』も実施しているからである。また、「子どもについての気がかり・心配ごと」のなかの項目「子どもが当たる」の「当たる」がわかりにくいため、「子どもがかむ・泣く・怒る」に修正した。新規項目としては、利用保護者の声を受け、「安心できる環境だから」を加えた。

なお、本調査は広島都市学園大学倫理審査委員会の承認を得ている。

### (2) 分析方法

質問紙調査における回答は、基礎統計量と回答の割合で集計し、全体的な傾向を把握した。

## 2. 結果と考察

### (1) 属性・家庭環境

オープンスペース利用者に関する属性と家庭環境は次の通りである。

まず「これまでの利用回数」について、「初めて利用した」が9名(8.4%)、「2～4回」が24名(22.1%)、「5回以上」が75名(69.4%)であることが明らかとなり、利用保護者の約7割がオープンスペースをよく利用していることがわかった。

表1 保護者の年代

調査実施時期	10代		20代		30代		40代		計
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	
第1回 (2014.7～9)	0	0.0	18	15.1	89	74.8	12	10.1	119名 (100%)
第2回 (2015.1～2)	0	0.0	21	22.3	69	73.4	4	4.3	94名 (100%)
第3回 (2015.8～9)	1	1.0	28	26.9	65	62.5	10	9.6	104名 (100%)
第4回 (2016.9～10)	0	0.0	29	27.1	70	65.4	8	7.5	107名 (100%)
第5回 (2017.9～10)	0	0.0	27	25.0	70	64.8	11	10.2	108名 (100%)

表2 利用者（子ども）の出生順位

利用者	人数	(%)
第1子のみ	66	61.1
第1子と第2子	11	10.2
第2子のみ	25	25.1
第2子と第3子	2	1.9
第3子のみ	4	3.7
計	108名	(100%)

表4 オープンスペースを知ったきっかけ(複数回答)

項目	人数	(%)
口コミ	46	(42.6)
大学のチラシや看板を見て	11	(10.2)
インターネット	18	(16.7)
子育て情報誌	3	(2.8)
区役所や公民館	24	(22.2)
市の広報紙	8	(7.4)
その他	13	(12.0)

表3 家族構成と頼れる人との関連

家族構成		頼れる親族	
		頼れる人あり 数 (%)	頼れる人なし 数 (%)
第5回	パートナーと同居	80 (75.0)	27 (25.0)
	ひとり親家庭	1 (100)	0 (0.0)

利用保護者の年齢は30代がもっとも多い(表1)。また、利用する子どもの詳細をみると、第1子のみ利用は61.1%であり、次いで第2子のみ利用の25.1%であった(表2)。

家庭環境は、利用者のほとんどが核家族であり、何かあった時にすぐに頼れる(近居している)親族の有無では、パートナーと同居している場合、「頼れる親族がいる」と回答した者は75.0%であり、ひとり親家庭(1名)の場合も「頼れる親族がいる」と回答した(表3)。

## (2) オープンスペースを知ったきっかけ

オープンスペース「いーぐる」を知ったきっかけを尋ねた結果は、表4の通りである。これまでの調査結果と同様に「口コミで知った」の割合がもっとも高く、次いで「区役所や公民館」となった。「その他」の具体的な内容として、通りがかりに、友人・知人から聞いて、近所の方に誘われて、先生に声をかけられて、という記述がみられた。

表5 オープンスペース利用理由

項 目	第5回調査			
	当てはまらない(%)	当てはまる(%)	最も当てはまる(%)	3件法 平均値
自分の友人を作ったり，友人と交流	15.7	67.6	16.7	2.01
悩みを気軽に話せる場がほしかった	10.2	64.8	25.8	2.15
相談に対してアドバイスがもらえる	12.0	71.3	16.7	2.05
いーぐる通信・SNSから情報が得られる	47.2	49.1	3.7	1.56
子どもが喜ぶから	0.0	20.4	79.6	2.80
同じような年齢の子どもとの交流	2.8	29.6	67.6	2.65
子どもを集団になれさせるため	5.6	33.3	61.1	2.56
育児休暇後の復職に向けて，子どもの 保育所入所の準備として	64.8	26.9	8.3	1.44
幼稚園就園の準備として	53.7	38.0	8.3	1.55
幼稚園選びのための情報を得る	10.2	55.6	34.2	2.24
ストレス解消やリフレッシュ	0.9	36.1	63.0	2.62
設備や遊具が充実している	0.9	37.0	62.1	2.61
親子で絵本を楽しめる	12.9	56.5	30.6	2.18
親子でいろいろなおもちゃで遊べる	0.0	33.3	66.7	2.67
親子で砂遊びができる	14.8	47.2	38.0	2.27
季節感のある室内装飾を楽しめる	14.8	59.3	25.9	2.04
身体計測ができる	15.8	50.9	33.3	2.18
子育て相談がある（＊）	6.4	55.6	38.0	2.31
講座や講習会がある	19.4	60.2	20.4	2.01
日替わりで，保育士さんの「おかえり の会」がある	32.4	43.5	24.1	1.92
あたたかく迎えられ，ほっと心がなごむ	4.6	38.9	56.5	2.52
安心して自分がトイレに行ったり，下 の子の授乳ができる	13.9	36.1	50.0	2.36
安心できる環境だから（＊＊）	5.6	23.1	71.3	2.66

（＊）項目修正 （＊＊）新規項目

### （3）オープンスペースの利用理由

オープンスペースの利用理由は，「最も当てはまる」，「当てはまる」，「当てはまらない」の3件法で回答するものとした。この平均値は表5の通りである。

多く挙げられた項目に着目すると，「子どもが喜ぶから（2.80）」，「親子でいろいろなおもちゃで遊べるから（2.67）」，新設項目の「安心できる環境だから（2.66）」，「同じような

表6 気がかり・心配ごとと「その他」自由記述

分類	記述内容
子どもの発達	言葉がどもる
	発達のこと
	多動などの傾向？
	言葉の遅れ
子どもの健康	指しゃぶりをやめない
	靴のサイズ（靴の遊び方）
	歯磨き
親自身の悩み	2歳でイヤイヤ期に入り、機嫌を起したり、思い通りにいかないと叫んだり、と対応に困ることがある。
	1歳5か月ですでにイヤイヤ言っていて、夕方にイライラしてしまう。
	母親から離れない

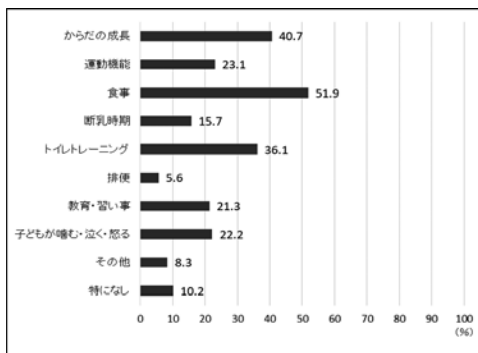


図1 気がかり・心配ごと（複数回答）

表7 食に関する気がかり・心配ごとと「その他」自由記述

分類	記述例
食べ方	量をかなり食べる。
	遊び食べ。イヤイヤ期なので機嫌で全てを投げる。
	苦手なものが食事にでると、スプーンや食器を捨てたり、落したりする。
	食べムラがある。途中で遊ぶ。
嗜好	最後までちゃんと食べない。
	食べるペースが遅い。
	偏食で困っています。
	お米をあまり食べなくなった。餅もあまり食べず、牛乳や野菜を食べることも嫌がり、栄養がきちんと取れてるか心配。
食習慣	今まで食べていた人參を食べなくなった。夕食は納豆ご飯しか食べないので困っている。
	下の子が産んで食べないで立ったまま食べる。
	食事を用意する間、我慢できない。
	体重の増えが悪い。
進め方	食べる量が適正なのかわからない。
	バランスが偏っていないか心配。
	メニューがパターン化・マンネリ化している。
	もっとメニューのレパートリーを増やしたい。
調理技術	今、この量や調味料などでいいのか。適量がわからない。
	酢・酒・みりんなどを使う時期がわからない。
	レパートリーが少ない。取り分けが苦手。時間がかかる

年齢の子どもとの交流ができるから（2.65）」、「ストレス解消やリフレッシュできるから（2.62）」、「設備や遊具が充実しているから（2.61）」、「子どもを集団になれさせるため（2.56）」、「あたたかく迎えられ、ほっと心がなごむから（2.52）」の数値が高く、この傾向はこれまでの調査と変わらなかった。一方、平均値は高くないが、「幼稚園選びのための情報を得る（2.24）」は2016年度調査の1.7倍に、「子育て相談がある（2.31）」は1.4倍に上がった。

#### （4）子どもについての気がかり・心配ごと

子どもについての気がかり・心配ごとを尋ねた結果は、図1の通りである。

気がかり・心配ごとに「食事」を挙げた者は51.9%と最も高かった。次いで「からだの成長」が40.7%、「トイレトレーニング」が36.1%であった。

「その他」の記述内容は「子どもの発達」、「子どもの健康」、「親自身の悩み」に分類でき、なかでも「子どもの発達」の遅れなどを心配する記述が見られた（表6）。

さらに、気がかり・心配ごととして「食事」を挙げた利用者者にその詳細を尋ねたところ、もっとも多かったのは「好き嫌いがある（25.9%）」で、次いで「かまない（18.5%）」、「食べる量が少ない（14.8%）」という回答が得られた。

表8 利用保護者自身について

	よくある	時々ある	たまにある	ない
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)
ダメと制止する言葉が多くなる	43 (36.8)	29 (29.8)	30 (27.8)	6 (5.6)
外出したいが疲れてしまい出られない	13 (12.0)	23 (21.3)	41 (38.0)	31 (28.7)
上の子我慢させてしまう (第一子のみ家庭除く)	17 (40.5)	10 (23.8)	10 (23.8)	5 (11.9)
子どもにイラッとすることがある	30 (27.8)	32 (29.6)	36 (33.3)	10 (9.3)
手をあげて、後悔してしまうことがある	6 (5.6)	7 (6.5)	21 (19.4)	74 (68.5)

### (5) 食事に関する気がかり・心配ごとー「その他」の自由記述

子どもの食事についての気がかり・心配ごとで「その他」に記述された内容は、「食べ方」に関するものが多かった(表7)。

### (6) オープンスペース満足度

オープンスペースについて満足しているかどうかを尋ねたところ、「満足」が96名(88.9%),「ふつう」が4名(3.7%),「不満」が8名(7.4%)となり、8割以上の利用者が満足と回答したことがわかった。

### (7) 利用保護者自身について

利用保護者自身について、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」、「子どもを連れて外出したいと思うが、疲れてしまうためできない」、「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」、「子どもにイラッとすることがある」、「子どもに手をあげて後悔することがある」の項目を設け、「よくある」「時々ある」「たまにある」「ない」の4件法で回答するものとした。

結果は表8の通りである。ただし、「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」の項目は、第1子のみ家庭には答えられないため、その場合は「ない」にチェックするよう指示した。ここでは、本項目に該当する42名の回答割合を示した。

この「よくある」「時々ある」の回答割合に注目すると、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」が66.6%でもっとも高く、次いで「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」が64.3%,「子どもにイラッとすることがある」が57.4%,「子どもを連れて外出したいと思うが、疲れてしまうためできない」が33.3%,「子どもに手をあげて後悔することがある」が12.1%であった。

### (8) 自由記述から

質問紙最後の自由記述には、毎回多くの感想が寄せられた。

具体的には、「どの先生も的確なアドバイスをして下さり、他のフリースペースとは違った安心感があります。1人1人に声をかけて下さり、見守られている、温かさが感じられます」、「常に保育アドバイザーの方があたたかく見守って下さり、安心して子供を遊ばせることができます」、「転居してきたばかりで不安でしたが、いつも優しいスタッフの方々に安心します」、「いつも気軽に子どもの相談にのっていただいて、本当に助けて頂きました。同じような歳のお子さんのお母さんともお話が沢山できて安心しました」などがあった。

## (9) 考察

オープンスペース開設から4年目に入った。オープンスペースの認知度は年々高まり、新規利用者が増えている。その背景には、オープンスペース利用者の情報発信の力があると思われる。また、自由記述内容を先取りすれば、Facebookのカレンダーを常にチェックして友人親子と一緒にイベントに参加する様子や、イベントにパートナーと一緒に参加する姿も多くみられるようになった。

属性や家庭環境について、第1回調査開始時から第4回調査まではそれほど変わらなかったが、第5回調査では変化がみられた。たとえば、第4回調査と比較して「利用子どもの出生順位」に注目すると、第1子のみという家庭は80.4%から61.1%と20ポイント下がり、第2子のみ家庭は4.7%から25.1%と20ポイント上がっている。その背景として、本オープンスペースを利用できる子どもは未就園児を対象としているが、利用子どもの多くは2・3歳になると入園・入所準備として別の施設を利用する傾向にあることから、ある程度の間隔をあけて第2子を出産した『第1子卒業』保護者が第2子出産を機に再来していること、オープンスペースの認知度が高まったことで『第1子未利用』保護者が第2子出産を機に利用していること、南区への転居を機に口コミ等でオープンスペースの存在を知ったことなどが推察される。また、利用保護者のほとんどがパートナーと同居しており、核家族世帯の割合が非常に高いという傾向は第4回調査までと変わらないが、パートナーと同居している利用保護者の「何かあった時にすぐに頼れる（近居している）親族がいない」の回答割合は19.8%（第4回調査）から25.0%とわずかながら上昇した。この割合が利用保護者の1/4に該当すると考えると、気兼ねなく頼れる友人・知人やパートナーの存在は大きく、これら人間関係の構築を意識することが本オープンスペースにより一層求められるであろう。

オープンスペースを知ったきっかけは「口コミ」と回答した利用者の割合がもっとも高く、その数値は2016年度の第4回調査よりも8ポイント上がった。また、今回の調査で注目したのは「市の広報紙」で約7ポイント上がっている点である。近隣の利用保護者が、乳幼児の遊び場や自身の息抜き・悩み相談等の場所を求めていると思われた。「区役所や公民館」の回答割合は年々増加しており、オープンスペース利用者が公的機関の催しなどにも積極的に参加していることが推察された。

オープンスペース利用の主な理由は、「子どもが喜ぶから」、「親子でいろいろなおもちゃ

で遊べるから」など、過去3年間の調査と同様の回答となった。新規項目の「安心できる環境だから」は3位となり、これは「いつも優しく接して下さり、いろいろ相談できるので私の気分転換になります。設備もきれいで子供を安心して遊ばせることができます」や「居心地がよく、アドバイザーの方も親切な方ばかりで、とても好きな場所です」など、自由記述にも表れている。

子どもについての気がかり・心配ごとの第1位「食事」の回答割合は昨年度の第4回調査の63.6%から51.9%と約12ポイント下がったが、今年度は担当者の都合で十分なフォローができなかった。新年度は利用保護者の要望に応えられるよう努めたい。第2位は「からだの成長」、次いで「トイレトレーニング」であった。「からだの成長」の回答割合は毎年3～4割を占めており、「トイレトレーニング」の回答割合は第4回調査の41.1%から36.1%へと下がった。保育アドバイザーの日常的なアドバイスの結果と推察する。

気がかり・心配ごとの「その他」の記述内容には変化があった。これまでの調査では、いやいや期への対応や、子どもの夜泣きと自身の睡眠不足などが多かったが、第5回調査では吃音や言葉の遅れ、多動など、子どもの発達を心配する記述がみられた。近年、『発達障害』、『困りごと』などのテーマがメディアで取り上げられるようになり<sup>2)</sup>、母子保健の現場でも『育てにくさ』がキーワードとして取り上げられている(秋山ら2017)。今回の調査で回答した利用子どもの実態がどうであるかは不明であるが、利用保護者がこのようなテーマやキーワードにセンシティブになっていることが推察される。『育てにくさ』に窺われる、子どもとの関わりにくさや子どもの発達上の気がかりは、保護者の不安を大きくするものであるが、その点を掘り下げて考えるためにはエネルギーが必要である。オープンスペースに気軽に来られる関係を保ちながら、利用保護者から受ける相談を保健センターなど地域のさまざまな機関につなげていく細やかな配慮が求められる。地域内の機関連携を日頃から築いておきたい。

次に、気がかり・心配ごととして「食事」を挙げた利用者にその詳細を尋ねたところ、もっとも多かったのは「好き嫌いがある」であった。木曜日の「食のなんでも相談」で利用保護者から聞く悩みは、今回の調査結果と同様に、離乳食を食べない、食欲に偏りがある、偏食が著しいなどであるが、家庭での食事の内容や調理方法、子どもの食事の仕方・食べ方、家族との関係などじっくり話を聞いてみると、悩みが軽減するケースが多い。引き続き、相談日に声をかけやすい雰囲気をつくりながら利用者支援をしていきたい。

オープンスペース満足度については、「満足」と回答した者が9割近くいることが明らかとなった。一方、「不満」と回答した8名の質問紙の「自由記述」を精査してみると、3名はオープンスペースに対して好意的な記述をしており、恐らく選択肢の並べ方を直前の設問選択肢のように好意的な内容を最初に置かず、「不満」「ふつう」「満足」とあえて逆の順番に設定したため、前の設問に引きずられたのではないと思われる。他の3名は開室時間の延長、企画の開催回数増加、企画開催時間の要望であり、2名は記載されていなかった。

利用保護者自身について尋ねたところ、子どもに対し「よくある」「時々ある」と回答



した割合は、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」がもっとも高く、次いで「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」が高いことがわかった。

さらに、利用保護者自身についての回答と「頼れる親族の有無」との関連をみたところ、「外出したいが疲れてしまい出られない」、「子どもに手をあげて後悔してしまうことがある」、「子どもにイラっとすることがある」、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」、「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」のすべての項目で、「頼れる親族あり」が「頼れる親族なし」より回答割合が高いことが明らかになった。これらの回答から、頼れる親族がいても利用保護者が一人でさまざまな葛藤を抱えながら子育てを担っている様子が垣間見えた。

### 3. まとめと今後の課題

オープンスペースを利用している保護者を対象に第5回質問紙調査を実施し、以下の結果を得た。

第一に、主な利用保護者の年代は30代であり、第1子のみ利用が6割、第2子のみ利用が2割に増えた。ほとんどが核家族で、何かあった時に頼れる親族がいる者は約8割いることが明らかになった。

第二に、オープンスペースを知ったきっかけは、「口コミで知った」の回答者がもっとも多く、次いで「区役所や公民館」であったが、「市の広報紙」の回答割合も前回調査結果と比較して増えていることが明らかとなった。

第三に、オープンスペースの利用理由として多く挙げられた項目は「子どもが喜ぶから」、「親子でいろいろなおもちゃで遊べるから」、「安心できる環境だから」、「同じような年齢の子どもとの交流ができるから」、「ストレス解消やリフレッシュできるから」、「設備や遊具が充実しているから」であった。

第四に、子どもについての気がかり・心配ごとの第1位は「食事」であり、次いで「からだの成長」、「トイレトレーニング」の割合が高いことが明らかとなった。

第五に、オープンスペースに対しては、9割近くの利用者が「満足」と回答した。

第六に、利用者自身については、「子どもに『ダメ』と制止する言葉が多くなってしまう」の回答割合がもっとも高く、次いで「下の子が生まれ、上の子を我慢させてしまうことがある」が高いことがわかった。さらに、利用保護者自身についての回答と「頼れる親族の有無」との関連をみたところ、頼れる親族がいない利用保護者よりも、頼れる親族がいると回答した利用保護者の方が子育てを一人で抱えているように窺えた。

本学オープンスペースにおける第5回質問紙調査により、利用者への支援の成果や満足度などが明らかになった。とりわけ、利用子どもの出生順位から、かつて第1子でオープンスペースを利用した保護者が、第2子出産後の早い時期から再び利用していることが窺えた。また、「砂場遊び」、「サマーコンサート」、「クリスマスコンサート」、「リトミック」、「絵本の読み聞かせ」などの参加者数が年々増加しており、利用者が行事カレンダーをしっ

かりチェックしていることが自由記述からも確認できた。さらに、オープンスペースが気分転換・安心できる場所となり、友人や相談相手をつくるなど、他の利用者となぐ場所、交流を深める場所としての機能を果たしていることも自由記述から推察された。

前田（2014）は、日本における子育て支援に関して「1970年代から90年頃にかけて盛んに研究され、子育て支援とは親の育児不安を軽減することだという考え方が定着」しているとし、川井、庄司ら（1996）は、育児不安の構成要因の分析研究により「育児不安は育児の心配にとどまらず、育児の負担感（育児ストレス）が関与している」ことを明らかにした。さらに、秋山、小枝ら（2017）は「親の感じる『育てにくさ』に、当初は子どもの発達障害や慢性疾患が関わっていると考え、これらの早期発見・早期支援を始めようとした」が、『育てにくさ』は子どもの要因から生じるものだけでなく、例えば、親の病気やパーソナリティといった親の要因、きょうだいの有無（子育ての経験の有無）や経済的な問題、親自身の育ってきた環境、両親の考え方の不一致といった親子の関係性による要因、親子を取りまく環境の要因といった、4つの要因から構成されていることを指摘している。とりわけ、4つ目の要因である親子を取りまく環境では、どういう地域で育っているかがポイントになり、地域社会のなかに母親を支える仕組みがどれだけあるかということが母親のゆとり感に大きく影響することが知られるようになってきているという。筆者らが運営するオープンスペースの果たす役割はここに合致しているといえよう。

今後も保育アドバイザー、教員、学生との開かれた関係を保ちながら、利用保護者と子どもたちにとって安心できる環境、育児不安の軽減につながり、仲間づくりのできる場を提供できるよう努めていきたい。

#### 【謝辞】

質問紙調査にご協力下さいましたオープンスペース利用者の皆様と、本事業に携わる保育アドバイザー、外部講師、事業を支えて下さる地域のサークルの皆様、そして、本学の教職員に厚くお礼申し上げます。

#### 【註】

- 1) 平成29年度公募型常設オープンスペース利用状況報告書（平成29年4月から平成29年11月まで）
- 2) 例えば、NHKは2017年に「発達障害プロジェクト」を立ち上げ、NHKスペシャル、ETV特集、ハートネットTV、あさイチ、ウワサの保護者会など、多様な視聴者の理解を得られるような番組作りをしている。  
<http://www6.nhk.or.jp/nhkpr/post/original.html?i=11626> 平成29年12月15日閲覧

#### 【引用・参考文献】

- 秋山千枝子、小枝達也ら。（2017）。「育てにくさ」の理解と支援：健やか親子21（第2次）の重点課題にむけて。東京：診断と治療社。
- 川井尚、庄司純一ら。（1996）．育児不安に関する臨床的研究Ⅱ：育児不安の本態としての育児困難感について．日本総合愛育研究所紀要，32，27-42.
- 厚生労働省 健やか親子21 <http://sukoyaka21.jp/about> 平成29年12月15日閲覧
- 前田正子。（2014）．みんなでつくる子ども・子育て支援新制度：子育てしやすい社会を目指して．京都：ミネルヴァ書房．